

秋も次第に深まって行く冥想にふさわしいこの季節に、諸君は今、西陣教会で催される黙想会に参列し、心静かに自己を反省し、人生の目的を再認識し、神との一致を深め、真に価値ある有意義な生活に、更に一歩前進しようとしておられます。

遠いローマの地、しかしキリストの代理人なるパペ様の膝元に來ていて、私は、常に信者達のことを心にかけ折っており、今は特に諸君の成聖と真の幸福のために祈らずにはおられない気持ちで一杯です。昨日も聖ペトロのお墓、ピオ十二世とヨハネ二十三世の新しいお墓に詣りて祈るとき、必然的に諸君のことを思い出され、ただただ心の底から諸君の上に主の豊かな恩恵と祝福とを祈らずにはおられませんでした。

実に現代の如く思想的に道徳的に混乱している社会は、過去には想像も出来なかつたもので、青少年の非行問題はいつ解決がつくともしれません。この危険にさらされた過渡期にあつて、真理に導かれ善の道を示された多くの人の中から、特に早く召された諸君は自重して模範的理想の完全な人間像を、各自の人格の上に



親愛なる京都カトリック

青年会会員諸君へ

京都教区長 ポーロ 古屋義之

刻み出していくように努力して下さい。真に「世の光」「地の塩」となつて、神の御旨を安らわせると同時に、一人でも多くの人々に真の心の平和と喜びを分かち与えることが出来るように尽力して下さい。しかし持たざるものは与えることが出来ないのですから、この黙想会の中に真剣に祈り、考え、反省し、決意して下さい。慈母なる教会の、諸君達若い世代の方々に期待するところは実に大きいものがあるのです。過つた思想のためにすら、純粋な情熱を傾注

して活動する青年のいることを考えるとき、真理と善の源なる神を知らしめられた者が、かえつて安閑としていたことは許されない筈ではないでしょうか？神の光榮御国の来りましよう各自はあらゆる方法を講じて活動せざるを得ない筈です。しかし身体も病氣をしたり榮養が足らない時には活力がなく、優柔不断に流れしてしまう通り、靈的生命に於ても、罪の病に陥りたり信仰の榮養が不足すると活力を失つてしまうものです。諸君はどうぞ、肉体的にも精神的にも健全な姿をいつも持ち続けて下さい。そうする時にはじつとして居ること出来る、何か神様のための教会のため人々のために奉仕せねば居られないことなのでしょう。他動的でなく自立的に活動がしたくてたまらないように自然になる筈です。

そうした活力も是非ともこの黙想会中に得られるよう努めて下さい。要するに真のキリストさまの神秘体の一部、神の子、神の家族の一員としての自覚をもつて立ち上つて下さい。

私共はいま公会議に列席して、全世界のあらゆる民族から集つて二千三百名余りの司教が、みな一の信仰、一の希望、一の愛につなが

フリーラー 神父様の金祝

舞鶴三の丸教会 主任司祭 ウィリアム・ジェームス神父



ジェームス・フリーラー師

レデンプトール会舞鶴前管区長フリーラー神父様の金祝の祝賀が帰国中で催されたことは御存知のある方々の記憶に未だ残つていないと思ひます。病状思わしくなく帰国なされた時はどうなることかと御案じ申し上げ

げましたが、病癒えて老いの身に鞭を打ち初志を貫くべく八月下旬再び日本にお帰りの下され、元気そうなお姿を見せて頂いた今日この頃、私の小教区でも神父様の御誓願五十年を心からお喜びお祝い申し上げます。

神父様がカトリック司祭として神と迷いなやめる者と共に歩んで来られた昔日のことを若干綴り、その数々の働きを讃え、私達の僅かなお祝いと感謝を表わしましょう。

神父様の国カナダにおいて、聖職者の中で、フリーラー神父様の名を知らない者はほとんど居られません。司祭叙階と同時に常に重責をお担いになられた事で噂に高いお人であり、司祭生活中の大部分は、修道会の諸要職の担い手でありまして、日頃それこそ身心の休まる時がなかつたのではないかと思われます。

しかし、持前の不屈の精神力と超人的熱誠をもつて神と隣人愛に一身を捧げて今日まで御精進されて来られました。神父様のことを紹介するにあたり、その幼少時の事柄が取材出来なかつた事を誠に遺憾に思ひお詫が申し上げます。一八九三年一月六日、御誕生の地はケベック市聖パトリックの小教区で、信心深い御両親の子としてお生れになりました。長じて（高校一年生）アメリカにあるレデンプトール会所属の小神学校にお入りになるまで、ずっとその地で過ごされて来られたそうです。小神学校、修練期共にアメリカでお終えになり、大神学校課程はニューヨーク市のエンプスの地で、亦当地で栄えあるキリストの司祭にあげられました。司祭叙階後、半年程助任司祭としてお働き下さいましたが、それ以後今日に至る日までほとんど頭取を持って任じ、或る時は小神学校の院長として、亦大神学校の教授、修練長、亦十三年間の永きに亘る年月本国において管区長の御重責、小教区の主任司祭、たまたまローマの特別な命により、全米レデンプトール会の管区の特使として大いに御貢献して下さいた事はあまりにも有名なことと云わねばなりません。誠にキリストと共に苦しむ者の名にふさ



古屋司教認可
発行所 教区事務所
定価 一部 10円
予約 一年 100円

MEDITATION OF THE MONTH

THE MONTH OF THE POOR SOULS

During the month of November we think of the poor souls in purgatory.

We think of them for God's sake - that He may have these dear souls with Him soon and for eternity. We think of them for their sake - that they be released quickly from the flames of purgatory so as to enjoy everlasting bliss. We think of them for ourselves, that they might pray for us when we in our turn have entered that place of purgation.

月の黙想

練獄の靈魂、

私たちは11月の間、練獄における哀れな靈魂の友を考えなければなりません。

神様御自身の立場から考えて見ますと、これらの愛する靈魂が速やかに神様のもとに帰り、永遠にとどまることが出来ますように、また練獄の靈魂自身に就て考えるならば、彼等が早く練獄の焰から解放され、永遠の祝福を受けることが出来ますように。

フーラー神父様の御挨拶

皆様、本日私の誓願の五十年間記



フーラー神父様への御祝詞

日星高校 二年 野田昌代

フーラー神父様

私達は今日、霊のお父様でいらっ

しやいます神父様の誓願五十年目のおよそ心をこめて申し上げ、私達のこの地方に神父様がいらるとお尽くし下さいました愛のあふれるお祈りを感謝申し上げます。一人一人が、それぞれに喜びに満ちて、舞鶴をはじめとして、丹波、丹後の各地から集まっています。

フーラー神父様が遠いカナダの國で誓願をお立てになりましたから、今年は五十年目でございます。神父様は、日本においでになりました。また、カナダにおいても、小神学校の院長様や大神学校の教授、修練長、管区長、またアメリカ・レノバトール会の管区特使としてローマにおいでになります。イエズス様の御光栄のために、大切な多くの仕事をなさいます。そしてローマにお

念のために大愛御親切に集まって下さい。十五年程前から、今まで絶えず皆様が私を親切にやさしく扱って下さり私の仕事に常に御寛大に御協力いただきまして心から感謝致します。十五年前にカナダを出ます時、私の家族と別れましたが、日本に参りますと、新しい家族に入れていただき、故郷の兄弟から別れましたが、日本では数百年の兄弟が出来ました。非常に喜ばしい、有難いことと存じます。

レノバトール会に入りましてから今までの五十年間を顧みますと、レノバトール会の司祭の方々及びブラザーの方々にはどのような恩があるかを認めており、私の欠点を認めて

いになり、只今のパウロ六世教皇様を通じて、ローマ聖庁から、レノバトール会へ、日本に行き、御教を授けようとお勧めがありました。フーラー神父様は、戦争後まだ日もたたない昭和二十三年に、私どもの國へ、ジェームス神父様とたまたまおいで下さいました。その頃の我國の状況は、衣食住のすべてが乏しく、本当に何もなくて、生きるためにはいろいろな不道德も平然と行われる有様で、目に映る物も心も、総てが荒れ果てた状態であったと聞いております。その中においで下さいました神父様が、お住いになりましたのは、今の寄宿舎の場所にあった建物でございました。今でこそ改築されて美しい建物でございますが、その頃は、軍隊からゆづり受けたままの汚れた板屋で、掘立小屋と同じでございます。神父様は、平和で豊かなカナダの生活を捨てて、この困難を極めた私達の生活の中に、私達と共にそれを暮らすためにおいで下さいました。お言葉も御不自由な当時、その暗い埃だらけの、百足や蛇がいくつも出て来るという建物に、灯もなく第一夜を過ごされた神父様は、どんなお気持ちでいらしたのでしょうか。

忍耐して下さり、私の弱点を見て助けて下さり、私の仕事に最大の協力を下さいました。神様の祝福が豊かにならんことをお祈りいたします。これから先、神様がレノバトール会により沢山の司祭とブラザーを与えて下さるよう祈ります。又いつもいつも機嫌よく、熱心にお働きになる訪問会のシスターの方々に長い間御協力いただきまして感謝いたします。同時に、本校（日星学園）の先生方及び学生方に感謝いたします。今、当時の寄宿の方々の極く親しい交わりをなつかしく思い出します。その多くは、今は結婚していらっしゃるが、よそへ行かれました。しかし、その皆様の上に神様の祝福がありますようにお祈りいたします。レノバトール修道会のシスター方にもいろいろと感謝いたします。西



舞鶴、中舞鶴、東舞鶴の信者の方々に感謝いたします。また舞鶴市役所の方々に日本語の下手な私がたびたび迷惑をかけたことにもかわからず、いつも同情し、御協力いただきまして感謝いたします。舞鶴の市長様にお礼申し上げます。最後になりましたが、本日の集まりにわざわざおいで下さり、美しい音楽で趣意を添えて下さった自衛隊の方々に感謝いたします。日本とカナダがいつも親しい友であり、又両国のため及び世界平和のために協力をするようお祈りいたします。では皆様、心の底より厚くお礼申し上げます。愛情をもってこの挨拶を終らせていただきます。（写真説明）同窓生に囲まれたフーラー師

後、フーラー神父様は、日本におけるレノバトール会の初代管区長様として、この丹波、丹後の地に、三の丸や東舞鶴をはじめ多くの聖堂をお建て下さり、はじまりの聖堂を經營になる聖ヨゼフ学園や聖母病院に、陰に陽になって御援助をお与えになり、そして何よりも尊いことは、たくさんの人々を天主様に導き下さりましたことと感謝いたします。それらのお仕事は、一つ一つ今も生きつづけ、成長しつづけ立派にフーラー神父様の御徳をたたえ申し上げておるのでございます。こうして暫くの間も惜しまれたお忙しい御生活が御体にさわり、御病気にさられてカナダに御帰りのなり、一日も早く日本においで下さることを願っております。そこへ、先日カナダからもう一度この地にお帰り下さいますことを伺いました。時、夢ではないかとうれしゅうございました。そして今、私達は、永い間待っていたお父様のお帰りを迎えようという心で、フーラー神父様をお迎えたいと思っております。どうか神父様、もうどこにもおいでにならないで、いつまでもお元氣

で私達と一緒においで下さい。うにお願い申し上げます。そしてこの丹波、丹後の地に、天主様の御教えがますます盛んになりますように、私達をお導き、お祈り下さいますことを重ねてお願いいたします。この金祝の佳日に当り、ふつつかながら皆様に代わりまして、御喜びと感謝の気持ちを述べ、絶えざる御助けのメリア様の御保護が神父様のの上にますます豊かでありまようお祈り申し上げます。（写真説明）金祝の祝詞と花束を受けるフーラー師

わしく主の十字架を自らの背にしっかりと担い続けて昨今の栄えある金祝の喜びをお迎えになられた神父様の心境察するに余りあるものがあると思います。天主様の御摂理は、常に私達にとって妙であります。或る年のことレノバトール会の総会がローマで開催された時、フーラー神父様も御出席になっておられました。その時の教皇ビオ十二世陛下のもとで、聖庁外務のお仕事にたずさわっておられたのが現教皇パウロ六世陛下でありまして、レノバトール会の日本布教の依頼が、今の聖下の手を通してなされたことも奇遇と申せましょう。この事が直接渡日のきっかけとなり、しかも日本初代レノバトール会管区長として神父様は皆様の國にお越しになられました。時恰も一九四八年六月二十六日船は海路悪く横浜港に入り、始めて日本の土をお踏みになられ、始めて年を召した信者の方々は、当時の事を覚えて居られると思います。が、終戦の悪夢さめずして、行く処荒廃と腐敗、人心定まる処を知らないという具合で、平穏を取戻したいという、當時を回想致しますと誠に隔世の感が致すのではないかと思っています。その頃、北丹亦舞鶴地方は教会司牧士大阪教区に属し、豊中の田口司教様に挨拶のためそこにおもむきになり、そして神父様がよいお舞鶴に引越してこられたのは暑気格別厳しいその年の七月十三日で御座いました。こちらに來られても修道院にふさわしい建物とてなく、

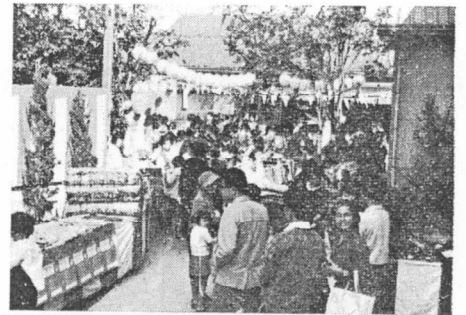
一時唯今日星寄宿舎のある辺に仮の宿をもうけ一年半程そこで過ごされました。神父様の意中に秘め隠されたものは、天主様の御光栄、それは同時に人々の心の中に天主様の愛の火を点する事で、その一念は常に変わりは御座いせん。想えば自国カナダにあって、東西三三〇〇哩、その間に点々と散在する幾多教区を司牧する全司教団を始め、全司祭、その他聖職者達に幽玄極まるキリストの奥義と神祕をばいままに説き、黙想の先導に御専念なされた事のある神父様が日本に來られ、初めて憩い、枕された処は、その昔神の御子がかつて自ら選り取り取られたベレヘムの貧しい馬小屋にあり、にも似通うものがあったのも天主様が神父様にお計いなされた特別な御計画のように思われてなりません。フーラー神父様が日本にお越しになられて今年で十六年目を数える事が出来た。その間、管区長の任に就いた時、その手がけとして聖クレメント修道院及び聖母病院の創立、更に東西舞鶴教会の新聖堂と由良伝道館、聖堂、福知山、綾部、報恩寺諸教会、聖丹、福知山、綾部、報恩寺諸教会、聖堂及び各施設、奥丹、岩瀬、加悦、口大野、網野教会等の建立に尽力されました。私達がこの地方を往來する時、必ずやそこにそびえる十字架を御慈を充たす思いで懐しく眺める事が出来るのも、神父様の血汗の一滴一滴に支えられて出来上がったものであります。言っても誠に過ぎる事ですが、神父様も人の子、過ぎ去った永い年月、あたかも一日の如く御精進の途をおたどり下さった尊い姿をまのあたりに見て「キリストこそ我がうちに生きるなり」との聖パウロの言葉が私達の心の中を去来するのであります。私達にとって常に慈父たりませ、フーラー神父様、その一風ある風格と柔和を物語る御童顔、寄りそう人をしる語らずその愛情の深さを悟らせ、微やかな温情を捧げずしてしかに祈ります。主の平和の裡にキリストのはまれ高い司祭として数十年前から自ら時々数々の種子の豊かな稔りを数えてお過ごしあれとお祈り申し上げます。

バザー

西院教会

九月二十九日(日)当教会の保護者聖ミカエルの祝日に、バザーが開かれた。

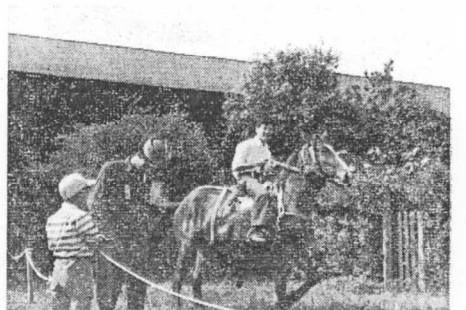
当日は快晴に恵まれ、午前十時開場と同時に多くの入場者を迎え、正午前、その数は最高潮に達し、各修道会寄贈のケーキは、装身具類と同様、飛ぶように売れて、午前中に店仕舞いをしなければならぬ程だった。その他、商店、百貨店の出張もあり、茶室も盛況であった。午後四時待望の抽せんがあり、五時頃成功裡に終了した。



バザー会場入口附近



装身具・ケーキ売場



ブレイ・ランドの一部



抽せん風景

青谷カトリック教会便り

青谷カトリック教会では年中行事の一として毎年被昇天祭に夜の祭典を行っています。年と共に盛大となり今年には信者外一般参加者を合わせると約三百人余に及びました事を感じています。

野外の式場では生きたロザリオのお祈り、聖体行列、聖体降福式が執り行われ祭壇上のロソクは煌々と輝き、紅白数十ヶの提灯の光で白いペールが浮かび上って荘厳さは一

入でした。ハベニック主任神父の説教を最後に式典の終了後直ちにアトラクションに移り、数十度の花火で夏の夜空を色取り、一方俄造りの舞台上では斬新な手品がプロ先生の巧妙な手付きで次々と演じられました。その奇術、魔術はアンコールに次ぐアンコールの大好評、小学生、中、高校生達は奇術のたねを見抜くうと真剣な表情でプロ先生の周囲を取り巻いて大変な賑いでした。その

間婦人会の売店、冷メンの食堂は大入り満員、売り上げも上々、参加者の皆様にパンフレットの御土産をお渡しして、楽しかった夜の祭典の幕を閉じました。

「追悼ミサを 学友に捧ぐ」

洛星学園

秋もいよいよ深まる九月二十六日、ナドウ校長司式の下に、父兄、教員、全生徒参列して去る十二日、

中学三年で死去した大塚莊平君の追悼ミサが厳かなうちに進行なわれた。式は校長の説教で始まり、グリークラブを聖歌隊とするレクイエムミサ、献花式、友人の読み上げる弔辞で終り、三年生全員の「世を去る友」の合唱に送られて、学園から遺族に抱かれ悲しみの退場をしていった。

故大塚莊平君は、昨年九月に肉腫の診断を受けて入院、日々病状悪化の中にあっても常に快く友人の訪問に応じていた。三月には受洗を決意し、病院で静かに校長から授洗され

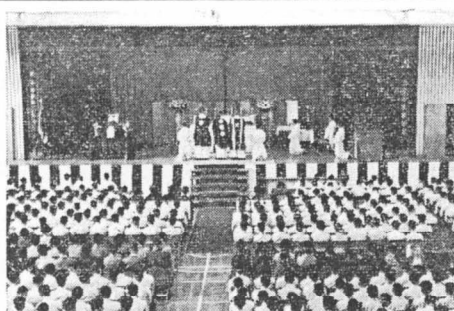
ヨゼフ・ガブリエルの霊名を頂き、神の子としての生活に入った。九月十二日衰弱きつた中で終油の秘蹟を受け、両親を始め御世話になった

十月、十二月の第二及び第四日曜日、午後一時から、トマス学院にて行ないます。尚、十月十三日(日)は、学会だと試験などのため例外として十月二十二日(火)午後五時より行なうことにしております。

テキストは、Vatican Polyglot Press の英語訳を使用しています。日本語訳は、明らかな誤訳「例「人はみなペルソナ、すなわち、知性と自由意志とをそなえた本性であり……」[同訳書四頁]、これでは、ペルソナ＝本性、の意になる」や、英語訳に比べれば、省略や不適当な意訳があり(この点については、フランス語訳及びラテン語本文との対照も行なう予定)、訳語の不統一——例、bonum commune (common good) は、共通善、共通の利益、共同の福祉、共通の善などと訳してあるが、この訳し分けは意味がない——があるので、参考にして

御入用の方は、トマス学院内学連までお申込み下さい。

皆さま(特に学生)の参加を待っております。そして、知識人の方々、司祭の方々の助言をも待っております。責任者は、芹田(京大大学院学生)です。



人々、友人に別れを告げ、死を恐れることなく安らかな眠りについた。遺骨の去った講堂は暫く故人の安息を祈る静寂が続いた。「死よ永遠の安息を主のしもべに与え給え」(写真説明) 追悼ミサ

回勅「パーチェム・イン・テリス」を読む会

故ヨハネ二十三世の諸回勅、就中

余興の奇術

婦人会の活躍振り

同上

野外聖体降福式



京都学連 新役員就任にあたって

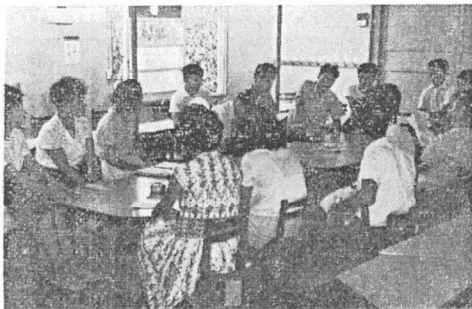
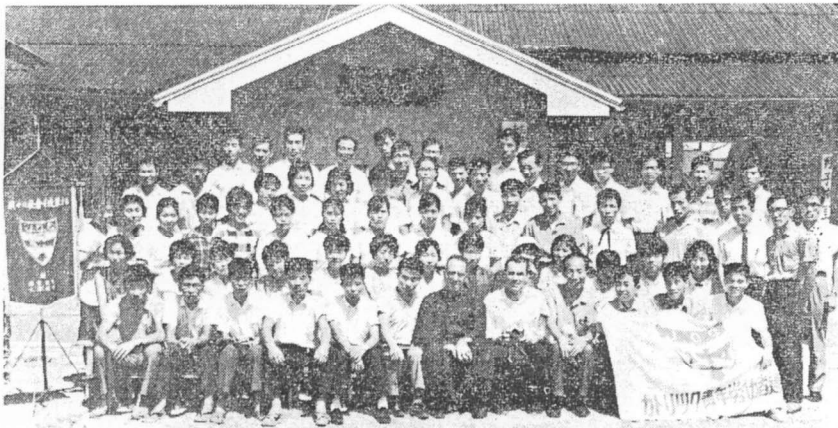
これから一年間、学連をやっていくに当たって、目指すところは唯一つ、「私達が生きるこの現代に生きるキリストをもたらし」ことである。キリスト信者となった時、即ちキリストにかり集められた時、我々は「伝える」という重大な使命を与えられた。キリストの一個の道具として、平信徒としてのより積極的、主体的行動を通じて、あたかも前線で戦う兵士の如く福音を伝えるという使命を、従って、キリストの神秘の中で、それらの兵士へのエネルギー注入機関たる学連の占める位置は大きく、当然学連へ寄せられる期待も大きいであろう。

祈りと研究に励み、そこで得たエネルギーを、大学に社会に散らばることによって、十分発揮したいと思う。今私達に課せられた責任の重大さは、行く先の遠く険しいことを予想させるが、それだけにいっそうキリストに選ばれたという喜びを増し、若い私達の魂を鼓舞するものである。最後に、多くの人々の学連に対する霊的な援助を期待させて戴きたい。

JOC・JOCF京都地区年次集会

盛会のうちにおわる

JOC（カトリック青年労働者連盟）では本年、全国各地で「未来に向けて意義ある男女交際を」をテーマに年次集会を繰り広げているが、京都教区においても、衣笠、大津、青谷の三組会合同の許に一般青年、特に



求道者、信者青年労働者連盟）では本年、全国各地で「未来に向けて意義ある男女交際を」をテーマに年次集会を繰り広げているが、京都教区においても、衣笠、大津、青谷の三組会合同の許に一般青年、特に

「をかこんで行ないお互いを打ちつけたものにさせた。第二日は六時三十分JOCのミサに全員参加、朝食後九時より、本年次集会の中心となる講話が始まる。テーマは「意義ある男女交際と結婚」講師はJOCのOBであり熱心な協力者、大阪信愛女学院松尾園夫先生である、先生のユーモラスな語調にばく笑のうずを起しながらも若き百五〇の瞳は次第に先生の話に食いついていく、本当に一時間三〇分の講演時間はまたたく間に過ぎてしまった。

その後午前と午後の二回男女年令別四グループに分かれ結婚問題、交際の問題が討議された。朝食、昼食おやつなど青谷女子JOCF会員の心づくしはきれいに平らげられた。

午後二時半より球技（バレーなど）午後四時ベネディクションで閉会、全員後片付けののち桃山高校定時制合唱部のお別れコーラスに送られて再会を約して散会した。最後に三組合員だけ残りJOC研究会と反省会を行なった。

JOCとは？一九九一年にベルギーで生れ世界百一ヶ国にまたがる国際運動カトリック青年労働者連盟です。日本では一九九九年北九州に始まり現在では働く青年の集まりとして全国各地に拡がっております。

と思う。
昭和三十八年度京都学連の新役員の紹介。
委員長 セバスチアン・千本 倅生（京大・工・二・奈良）
副委員長 マリオ・西山 諄（同大・経・二・西院）
委員 渉外
フランシス・ザベリオ・小野毅（京大・工・一・衣笠）
庶務 井口 素子（ノートルダム女子大・英文・二）
典礼

ヨハネ・椎橋 泰雄（立大・二・河原町）
カトリック研究会
パウロ・山下 晴朗（京大・理・一・河原町）
会計 藤田 和彦（立大・二）
図書
ベネディクト・依光 英夫（立大・工・一・彦根）
機関誌
クリスティーナ・川田 高子（ノートルダム女子大・英文・二・北白川）

無任
アンドレア・馬渡恭三郎（京大・理・三・大阪武庫荘）
遠山 峻征（京大・理）
（以上 文責・千本倅生）

「お集まり」
聖母学院隣接のヌヴェール愛徳会修練院では、各地で行なわれている純粹の黙想会ではなく、準黙想会とも称すべき事が行われている。この会のことを「お集まり」といいます。

第一回目が昨年十月に開かれて以来、一年間大い月一回（支障のある月はなし）続けられている。

写真説明 上より
F青谷組合
JOC・JOCF
教会内
青谷カトリック

○原稿の締切りは毎月十日まで。
○記事はニュースの他に美談、失敗質問、こぼれ話等もしどしどし。
京都市中京区河原町三条上ル
下丸屋町
京都教区事務所内
教区時報係宛

編集室より